

# 平成 7 年度魚病診断結果

沢田健蔵・杉本善彦

平成 6 年 4 月から平成 7 年 3 月までに養殖魚及び種苗生産や中間育成時に発生する病害について、水産試験場への持ち込みと養殖場の巡回調査時の検体について診断した結果を表 1 及び表 2 にまとめた。

## 診断結果

内水面における診断件数はアユ 229 件、ウナギ 4 件及びアマゴ 20 件となり、総件数は 253 件であった。海産魚における診断件数はブリ 36 件、ヒラメ 15 件、マダイ 4 件及びその他の魚類 22 件となり総件数は 77 件であった。

アマゴではせっそう病の診断件数が多く、アユでは冷水病及びシュードモナス病がアユの診断件数の 78%を占め、ほぼ周年発生が見られた。ブリでは連鎖球菌症が主要な疾病であった。マダイではイリドウイルス症の発生が見られた。

6 月から 9 月にかけて阿南市伊島以南の天然海域でマイワシを主体とする連鎖球菌症( 型)の発生が見られた。

表1 平成6年度診断結果(淡水魚)

魚種/病名	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
アマゴ													
せっそう病	1	2		1	2				2				8
ビブリオ病				1									1
滑走細菌症											1		1
細菌性鰓病	1			1	1								3
連鎖球菌症				1									1
白点病					2				2				4
不明					1							1	2
計	2	2		4	6				4		1	1	20
アユ													
細菌性鰓病	2												2
ビブリオ病												2	2
シュードモナス病	12	34	7	17		8	5			5	4	1	93
冷水病	15	16	7	7	1	2	3		9	7	14	6	87
連鎖球菌症						1							1
ギロダクテルス症	3		1	1									5
水カビ病			2	1							2	1	6
不明	5	3	1	2		1				2	12	4	30
その他			1						1	1			3
計	37	53	19	28	1	12	8		10	15	32	14	229
ウナギ													
パラコロ病			2								1		3
グロサテラ症											1		1
計			2								2		4
総計	39	55	21	32	7	12	8		14	15	35	15	253

表2 平成7年度診断結果(海産魚)

魚種/病名	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ブリ													
ビブリオ病				3									3
類結節症				6	1								7
連鎖球菌症				4	6					9	3	2	24
不明				2									2
小計				15	7					9	3	2	36
ヒラメ													
エドワジエラ症			1			1							2
ビブリオ病	1	1	1									1	4
連鎖球菌症			1	1	1								3
不明						1				4	1		6
小計	1	3	2		1	2				4	1	1	15
マダイ													
エドワジエラ症										1			1
イリドウイルス症						3							3
小計						3				1			4
トラフグ													
ビブリオ病				1									1
不明					3		1						4
小計				1	3		1						5
キジハタ													
類結節症								1					1
不明										2			2
小計								1		2			3
イセエビ													
不明							2						2
天然魚													
マイワシ (連鎖球菌症)			2	1		2							5
カタクチイワシ (連鎖球菌症)			2										2
ウルメイワシ (連鎖球菌症)			1			2							3
ネンブツダイ (連鎖球菌症)			1										1
ヒイラギ (連鎖球菌症)				1									1
小計			6	2		4							12
計	1	3	9	20	1	16	4		3	13	4	3	77

### 薬剤感受性試験結果

ブリの *P. piscicida* の薬剤感受性試験結果では、オキシリン酸には全て高感受性であったが、アンピシリン及びフロルフェニコール等に低感受性株が見られた(表4)。

ブリの連鎖球菌 型の薬剤感受性試験結果では、エリスロマシシン、キタサマイシン、リンコマイシン等に低感受性を示す株が見られた(表5)。

表3 薬剤名

ABPc :アミノベンジルペニシリン	DOXY :ドキシテトラサイクリン
OTC :オキシテトラサイクリン	OA :オキソリン酸
FOM :ホスホマイシン	EM :エリスロマイシン
SPM :スピラマイシン	NFS :ニフルスチレン酸ナトリウム
FF :フロルフェニコール	AMPC :アモキシジリン
TP :チアンフェニコール	LM :キタサマイシン
LCM :リンコマイシン	NB :ノボピオシン

表4 ブリから分離した P.pscicida の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名							
	ABPc	OA	NB	AMPC	NFS	TP	FF	FOM
+++	3	4	2	4	3		1	3
++			2		1		2	1
+	1						1	
-						4		

表5 ブリから分離した連鎖球菌 型の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名							
	DOXY	OTC	EM	LM	LCM	SPM	TP	FF
+++	16	15	11		1	1		5
++	1	2	6	5	4	7	16	11
+				12	5	8	1	1
-					7	1		